



早通中だより

第7号 令和7年12月19日
発行 新潟市立早通中学校
TEL 025-386-7333
<http://www.hayachu.city-niigata.ed.jp/>

生徒会役員選挙

11月28日に立会演説会と選挙が実施されました。どの候補者も立派な姿でタブレット活用によるプレゼンを行いながら、これからの中についての公約・抱負を語ってくれました。令和8年度の早中生徒会を牽引する4人の公約（来年度の生徒会の目指す姿）を紹介します。リーダーを中心に全校生徒でよりよい早通中学校を創っていきましょう。



会長	金子昂太郎さん	【2-3】	みんなで創ろう明るい早中
副会長	畠山京人さん	【2-2】	明るく楽しく学校生活を送る姿
副会長	城野咲愛さん	【2-1】	互いを尊重し個性を伸ばし合う早中！！
書記局長	今富隆景さん	【2-2】	先を見通し、より快適な早中をつくる！

校長講話「早中シン時代」

来年4月から市立中学校の部活動が大きく変わります。早中では「平日16時40分まで、週3日以内、週休日は活動なし」になります。

現在、地域の方が地域クラブ（サッカー、バレーボール、ソフトテニスなど）を設立し、早中の体育館やグラウンドで活動している例もあります。また、北区が地域クラブの設立について検討を進めた結果、吹奏楽は大きく動き始めました。さらに、ハピスカとよさか・新潟医療福祉大学が、北区中学生のみなさんにスポーツの楽しさを伝える『放課後スポーツタイム』も始動しました。

このような変化は、我らが早中にとって、新たな文化・早中第2世代、「早中シン時代」を築く重要な転機だと考えています。そこで、来年の早中の活動など、検討している内容についてお話しします。

1 体育祭と合唱祭の平日開催について

これまで、休日に開催していたことにより、「休日の地域クラブの活動を欠席するか、学校行事を欠席するか」選択していた生徒がいました。体育祭や合唱祭を平日に開催することにより、地域クラブ等に所属していようとも、早中生徒全員が所属感や一体感、連帯感をもち、社会性や心の成長に欠かせないスキルを学ぶことができると考えています。

2 自主的・主体的な部活動について

これまでのように、先生や指導者から教えてもらうことも大切にしつつ、これからは、それぞれの部活動のみんなが主体となって「教え合い」、「学び合う」活動を軸として、技術の向上はもとより、みんなで活動するマナー・コミュニケーション能力といった社会で役立つ力を身に付けることができると考えています。主体性を育み、そして、視

野を広げ、ときには焦点化したりするなど、将来どんな仲間とも折り合いをつける能力や新たな価値を創る資質を身に付けることができると期待しています。

3 部活動数の検討について

平成2年度、早中に30人の先生がいましたが、現在は21人です。担当する先生の人数が減ったのですから、部の数も減らすべきでした。しかし、早中生の思いを大切にしてきたため、部活動の数は、ほとんど変わっていません。かなり無理をして部活動数を維持している状態なのです。そこで、部員数等の様々な視点から募集停止、廃部の措置も検討していく必要があると考えています。

4 スポーツや文化芸術活動の地域展開について

地域の方が責任者や指導者となった地域クラブとしての活動が理想的だと考えています。休日問わず、早中の施設を使用すれば、いつものように通うだけなので、様々な負担がないからです。これについても、地域のみなさんにお声がけしようと考えています。

5 放課後や休日の過ごし方について

時間の過ごし方を自分で描いてください。家庭学習や習い事、趣味、地域クラブ、部活動など、貴重な時間を大切に使い、充実感や達成感を積み上げ、心が豊かで満たされる中学校生活を過ごして欲しいです。

6 「早中総踊り」について

地域や保護者のみなさまに勇気と元気、感動をおくる早中総踊りは、早中生徒にしかできない唯一無二の活動です。練習を重ねるほど、演舞そのものや仲間、学級、学年、早中に対する誇りや情熱を感じ、さらに力を合わせ成し遂げる体験は自分一人では得られない価値ある達成感をもたらします。

しかし、今後、休日に開催される「にいがた総おどり」や「早通ふるさと祭」には、学校教育活動として参加することはできなくなります。地域のみなさまや先輩方からのご協力をいただき、地域クラブのような組織を設置して活動することができれば、持続可能な形になると思います。地域のみなさんからご協力いただけるよう、お声がけしたいと考えています。



7 専門委員会数の検討について

部活動数と同様に、令和8年度は、1年間の活動を早中生みんなで振り返りながら、統合、廃止、活動の見直しなどについて、みなさんと考えていきます。

3年生は、42年間続いた早中第1世代を締めくくる重要な役割を担っています。「温故知新」成功、失敗から学び、探究、吟味することで新たな知恵を生み出すことができます。昭和から続いた早中文化や3年生が築いた早中プライドを橋渡ししてください。

1・2年生は、効率よく合理的で効果的な早中の土台をつくる、未来の早中に大きな価値をもたらすイノベーションを起こす役割を担うことになります。

このように令和8年度は、保護者や地域の皆さんなど、早中に関わるすべての方々とともに早中第2世代、未来型「早中シン時代」を創る「礎の1年」になります。